

UrbanSafari

[アーバンサファリ]

日之出出版

Oct.2022 Vol.30

Cover Story

ジョージ・クルーニー

Your Answer for This Winter.

この冬の正解。





SPEEDMASTER '57
Co-Axial Master Chronometer

伝説的なアイコンの帰還

特徴的なブロードアローの針、ベゼルに刻印されたタキメータースケール。スピードマスター '57は1957年に誕生した伝説の初代スピードマスターを象徴するデザインを引き継いでいる。このクラシックなタイムピースがさらに進化を遂げた。スリムな外装に豊富なカラー展開、そしてコーアクシャルマスタークロノメーター搭載により精度は次なる高みへ到達している。時代を超えて愛されるスピードマスターは、ジョージ・クルーニーとともに昔から変わることのない表情を見せる。

Ω
OMEGA



TUDOR



#BORN TODARE

What is it that drives someone to greatness? To take on the unknown, venture into the unseen and dare all? This is the spirit that gave birth to TUDOR, a spirit carried forward by every woman and man who wears this watch. Without it, there is no story, no legend and no victory. This is the spirit that drives **David Beckham** every single day. This is the spirit embodied by every TUDOR Watch. Some are born to follow. Others are born to dare.



BLACK BAY PRO

Contents

- 06 COVER STORY ジョージ・クルーニー
- 09 in Your CLOSET
- 14 上司の賃料アップは“ダブル”にご利益あり。
- 27 GOOD SLEEP HOTEL
- 31 ART INTO LIFE
- 33 ELEVATE YOURSELF
- 34 絶景の眺望を生かしたホテルライクな上質空間。
- 35 Gastronomic City YOKOHAMA

Kei Kobayashi

小林 圭／レストランKei オーナーシェフ

写真＝丸益功紀 文＝遠藤 匠

photo : Kouki Marueki (BOIL) text : Takumi Endo

フレンチの総本山で“3つ星”として輝きを放つ理由。

2020年ミシュランガイドで3つ星を獲得し、いまやパリ有数の予約のとりにくらい店となった〈レストランKei〉。オープンした2011年の翌年に早くも1つ星に輝き、2017年に2つ星、2020年から3つ星を3年連続獲得と、一流への階段を駆け上がってきた。その原動力はどこにあるのか。オーナーシェフ小林 圭氏に聞いてみた。

「私たちのレストランは“出会い”によって作られるものです。ゲストも食材も然り。食材を使うということは、その命を預かるということ。出会ったからには責任を持たなくてはなりません。その預かった命をどうやって皿に返して、ゲストの記憶に残るものにするのか？ その自問自答の繰り返しがレストランを育ててくれると思って、ここまで歩んできました」

だが、現状には慢心せず。“3つ星はスタートライン”という認識には驚く。

「私が目指しているのは、レストランを通して世界一の劇場を作ること。来てくれたゲストの心を満たし、感動を与えたいのです。もちろん、人によって育った環境が違うので簡単なことではありませんが、すべてのゲストに“今までの人生において一番いい時間を過ごせた”といってもらえること。それが究極の目標です」

そんな小林氏は、“料理と同じように生きていくうえで必ずしも必要ではないが、心を満たすために必要なもの”という考え方から、機械式時計も愛する人物。とりわけ〈オーデマ ピゲ〉の熱烈なファンという。

「世界三大時計ブランドと呼ばれる老舗でありながら、革新し続けていることに惹かれます。私の店の歴史はまだ11年ですが、料理の世界で革新を続け、いつかクラシックと呼ばれるようになる。料理人としてそうありたいと願っています」



発行人&編集長
Publisher & Editor in Chief
藤原 晃
Akira Fujiwara
メディア事業部 部長
Director of Media Division
成井 育
Tsuyoshi Narui

アートディレクター
Art Director
藤澤拓也
Takuya Fujisawa (ANAGUMA)
デザイナー
Designer
渋江裕子
Yuko Shibue (ANAGUMA)

コントリビューティング・エディター&ライター
Contributing Editors & Writers

遠藤 匠
Takumi Endo
大嶋慧子
Keiko Oshima
古関千恵子
Chieko Koseki
柴田 充
Mitsuru Shibata
中村孝則
Takanori Nakamura
渡邊ひかる
Hikaru Watanabe

●本誌掲載商品の価格表示はすべて税込み価格です。
●本誌内の記事及び写真、イラストなどの無断複写、複製、放送などを禁じます。
●本誌の編集内容に関するお問い合わせは編集部直通☎03-5543-1230までお願いいたします。
なお、土・日・祝日はお休みとなっております。

発行
株式会社日之出出版
〒104-8505 東京都中央区八丁堀4-6-5
編集☎03-5543-1230
広告☎03-5543-1131

〈レストランkei〉

15歳でフランス料理界に入り、1998年に渡仏した小林 圭氏が、巨匠ジエラール・ベッソンからパリのレストランを引き継ぐ形で2011年にオープン。2020年にアジア初となる3つ星を獲得。2021年には、パリを拠点に活躍する建築家・田根 剛氏の設計で内装を一新。ウェルサイユ宮殿の鏡の間を彷彿させる優雅な空間となった。

PROFILE

1961年、米・ケンタッキー州生まれ。人気ドラマ『ER緊急救命室』のドクター・ロス役でブレイク。『オーシャンズ』シリーズなどで映画界のトップスターとなる。2006年、『シリアナ』でアカデミー賞助演男優賞を受賞。以降、『フィクサー』『マイレージ、マイライフ』『ゼロ・グラビティ』などに出演している。監督としての評価も高く、「グッドナイト&グッドラック」でアカデミー賞監督賞の候補に。近年の監督作に、『ミッドナイト・スカイ』『僕を育てくれたテンダー・バー』などがある。

GEORGE CLOONEY

【ジョージ・クルーニー】

写真=John Russo / Contour by Getty Images (COVER), photo by Getty Images 文=渡邊ひかる
photo by John Russo / Contour by Getty Images (COVER),
photo by Getty Images text : Hikaru Watanabe

八

リウッドきっての大物独身セレブとして50代前半までを過ごしていたジョージ・クルーニーも、いまやよき家庭人であり、2人の子供の父親。2011年の主演映画『ファミリー・ツリー』で等身大の悩める父親を演じたときは随分と新鮮な印象を受けたものだが、近頃はさすがに父親役が板についてきている。もっとも、近年はかなり出演作を絞っているのもあり、映画の中で彼を目にする機会自体が貴重でもあるのだが。

そんな中で届いた出演最新作『チケット・トゥ・パラダイス』は、ハリウッドらしさ満載のハートフルなリゾートコメディだ。クルーニーが演じるのは、25年前に結婚し、娘を授かるものの5年で結婚生活の終焉を迎えた男。元妻と犬猿の仲にある彼は離婚以来の20年間、ことあるごとに元妻といがみ合い、皮肉の応酬を続けてきた。そんな両親の姿に、いまやロースクールを卒業し、司法試験に合格して弁護士事務所に就職しようという娘もあきれ顔を見せている。

「僕が演じたデヴィッドは、大抵のことには自信を持っている。けれど、妻だったジョージアに対してだけは、どこかぐらついてしまうんだ。離婚してもう何年も経つのに、まだ熱いものが彼の中にくすぶっているんだろうね。でも、きっとジョージアのほうは吹っ切れているとデヴィッドは思い込んでいて、その事実と折り合いをつけなきゃいけないと感じている。彼女には新しい彼氏がいるし、自分なしで人生を切り開いてきたはずで、今さら傷ついたり、ただでさえややこしい事態に拍車をかけたりするようなことは避けたいと思っている。そして、娘との親子関係が崩れるのだけはご免なんだ」

しかし、映画の開始早々、デヴィッドが最も避けたかったという“親子関係の崩壊”を招きかねない事態が発生。就職前のバカンスに出かけていた娘リリーが旅先のパリで地元の青年と恋に落ち、電撃結婚するという。帰国後まもなくはじまるはずだった新生活を捨てて。驚いたデヴィッドとジョージアは一旦休戦し、娘の結婚を阻止しようと一路パリへ。しかしながら休戦協定がすんなり守られるはずもなく、やがて2人は“くすぶっていた熱いもの”にも翻弄されはじめめる。まるで、ハリウッドの古きよき香りすら漂うロマンチックコメディ

の主人公たちのように。ジョージアを演じるジュリア・ロバーツとクルーニーといえば、『オーシャンズ』シリーズのダニーとテスとしても知られる仲。思い返せばダニーとテスも、“くすぶっていた熱いもの”に翻弄されがちな元夫婦だった。ちなみに、クルーニーとロバーツは2016年のサスペンス映画『マネーモンスター』でも共演している。

「ジュリアも僕も再共演できる企画を積極的に探していたわけではなかったけれど、彼女とまた仕事ができるとなればやっぱり出演したい気持ちにはなった。監督のオル・パークーは僕ら2人を想定して物語を書き、僕とジュリアへ同時に脚本を送ってきたんだ。それで僕は読み終えてすぐ、ジュリアに電話をした。『そっちがやるなら、こっちもやる』とね。彼女は『そっちがやるならやるわ』と返してきたよ。それからまもなく、ジュリアも僕も撮影地のオーストラリアに向かった。ジュリアと相性がいいのは、お互いの笑いのツボを心得ているからだと思う。笑いのセンスが似ているし、お互いにピンとくるんだ。昔からそうだったね。それに僕は(1997年の)『素晴らしき日』以来ロマンチックコメディをやっていなかったから、絶好のチャンスだとも思ったんだ」

『素晴らしき日』は30代クルーニーの姿が見られ

る1作で、実はこの映画で演じた役もバツイチの子持ち。ではあるが、元妻と暮らす幼い娘を久々に預かる役どころで、“父親っぽさの欠如”が物語の鍵にもなっていた。それでいうと、『チケット・トゥ・パラダイス』のデヴィッドはよい父親かどうかはさておき、娘の決断にオロオロする姿も、余計なことをして事態をより混乱させる様も“父親らしい”。自身と役柄を比べることはないだろうが、年々長くなっていくクルーニー自身の夫歴や父親歴が、ナチュラルな演技と違和感のなさに繋がっている気はする。

ところで、実生活のジョージ・クルーニーはとうと、もちろん進んでプライベートを明かすタイプではないが、先月は弁護士の妻アマル・クルーニーとともに公の場に姿を現す機会が続いた。29日には、自身が主宰するクルーニー財団のイベントに夫婦揃って出席。ちょうど同じ月に、結婚8周年の記念日も迎えている。こうなると主人公のデヴィッドが見習うべきお手本にも思えてくるが、そんなクルーニーだからこそ役を余裕たっぷりに楽しめたのかもしれない。この調子で、いろいろな父親像を演じてみるのはいかがだろうか。というより実のところ、出演本数がもう少しだけ増えればそれでいいのだけど。



『チケット・トゥ・パラダイス』

ロースクールを卒業したばかりの愛娘が、卒業旅行先のパリで地元の青年と恋に落ち、電撃結婚を決意。20年前に離婚して以来、ことあるごとに対立してきたデヴィッド(クルーニー)と元妻は娘の結婚を阻止すべく結託し、パリへと乗り込んでいくが……。監督は『マンマ・ミーア！ ヒア・ウィー・ゴー』のオル・パークー。クルーニーと元妻役ジュリア・ロバーツは製作総指揮にも名を連ねている。●11月3日より、全国ロードショー

©2022 Universal Studios. All Rights Reserved.

Julia and I weren't actively looking for a project to do together, but, of course, it was easy to say yes to a chance to work on another project with her.

ジュリアも僕も、共演できる企画を積極的に探していたわけじゃなかつたなんだけれど、彼女とまた仕事できるとなればやっぱり、受ける気になったね。

ジョージ・クルーニー

C
O
V
E
R
S
T
O
R
Y



MANUFACTURE CALIBRE [BR-CAL.323] • ±70-HOUR POWER RESERVE • CERTIFIED CHRONOMETER • 5-YEAR WARRANTY



NEW BR-X5
ADVANCED TIME INSTRUMENTS

Bell & Ross

in Your

CLOSET*

トランクに詰めているのは自由なる開放感と創造性。

オフィスに縛られないノマドなワークスタイルが定着して久しい。だが落ち着いて集中できる空間探しは難しい。
(ルイ・ヴィトン)のサヴォアフェール(匠の技)のDNAを示すユニークな“デスク・トランク”は
そんな悩みを解決してくれる。開いた瞬間、新たな発想も広がりそうだ。

写真=野口貴司 スタイリング=中川原 寛 ヘア&メイク=松本 恵 文=柴田 充 構成=大嶋慧子
photo : Takashi Noguchi styling : Kan Nakagawara (CaNN) hair&make-up : Megumi Matsumoto text : Mitsuru Shibata composition : Keiko Oshima

INTERIOR

ルイ・ヴィトンの “セクレタール・ビュロー 2.0”

1929年に世界的な指揮者レオポルド・ストコフスキイのためにはじめて製作されたデスク・トランクをモチーフに、現代的なスタイルと機能性を注ぐ。折り畳み式のテーブルとツールのほか、収納スペースなどを一体化。内装は、2021年度“ELLE×LVMH女性職人賞”受賞のマン・ブヴィエと共に作し、ストロー・マルケトリと呼ばれる麦わら象嵌細工を施す。贅沢な気分とともに、どこにいてもリラックスしてデスクワークに臨めるだろう。



右:サイドには書類などを収納できるモノグラム・キャンバスのボックスも装備 左:収納時のトランクは、インテリアとしても眺めて楽しい。H98×W55×D53cm 1881万円(ルイ・ヴィトン／ルイ・ヴィトン クライアントサービス)



TOUR
TAYLORMADE

TaylorMade®

APPAREL



TEAM

TaylorMade®

中島啓太 NAKAJIMA Keita



in Your

CLOSET*

凛々しき男の貫禄を演出するムートンという選択。

厳しい寒さが予想される冬。そこで今年のアウターはダウンを卒業し、ムートンを選びたい。貫禄あるスタイルは寒風にも負けない凛々しい姿を演出する。重厚感とともにレザーならではの味わいが、温もりを感じさせてくれる。

Saint Laurent / サンローラン Moorer / ムーレー Herno / ヘルノ Lardini / ラルディーニ



ヘルノの
“ティラードコート”



MOUTON

サンローランの
“シングルブレストコート”



ラルディーニの
“フライトジャケット”



ムーレーの
“カルボーニ”

D

タフなフライトジャケットもムートンの代表的なスタイルのひとつ。上質なシープスキンを用い、マットなブラックの風合いが大人のダンディズムを飾る。イタリアンブランドならではのスタイルリッシュなシルエットは、カジュアルだけでなく、様々なコーディネートで楽しむことができる。

ブルゾン37万4000円(ラルディーニ／トヨダトレーディング プレスルーム)、ニット4万1800円(フィリップ ド ローレンティス／トヨダトレーディング プレスルーム)、パンツ3万6900円(ブリリア 1949／トヨダトレーディング プレスルーム)、その他はスタイリスト私物

C

エレガント漂うウインターホワイトのシープスキンコート。なめらかなショートヘアに刈り込まれた内側は極上の肌触り。〈ヘルノ〉らしい中綿入りの前立てを備え、首元の防寒も万全。こちらは付け外しできるので、異なるスタイルでも楽しめる。フラップポケットを備えたスタイルもアクティブ。

コート59万4000円(ヘルノ／ヘルノ・ジャパン)、その他はスタイリスト私物

B

シックなダークブラウンの最上級ムートンを使用。インナーには超断熱マイクロファイバー素材の中綿入りのベストをセットし、高い防寒性を誇る。それぞれ単体でも着用でき、シーンや寒さに応じて1着で3通りのスタイリングが楽しめる。デイリーユースをはじめ、旅先でも活躍するだろう。

コート146万3000円(ムーレー／コロネット)、その他はスタイリスト私物

A

シアリングされたノッチドカラーに、ゆったりとしたシルエットは、まさにムートンコートの王道。ベーシックなシングルブレストにくるみボタンとスリットポケットを備え、タイムレスに愛用できるだろう。ともするとカジュアルになりがちなスタイルにも、エレガントな洗練を感じさせる。

コート92万4000円、スウェットシャツ13万2000円、パンツ14万8500円、リング3万3000円、サングラス4万9500円(以上サンローラン バイ アンソニー・ヴァカレロ／サンローラン クライアントサービス)

in Your
CLOSET*

もはやビジネス用バッグは“薄マチ”でいい。

かつてのように大量の資料や道具を持ち歩くことはなくなった一方、それでも大切なPCや書類などを収めるバッグは欠かせない。おすすめするのが(フェラガモ)。上質でスマートなブリーフケースに気分も軽やかになる。

BAG

フェラガモの

“ザ フェラガモ ステューディオのバッグ”

その魅力を女性だけに独占させておくことはないだろう。2018年に登場し、ブランドのアイコンバッグシリーズとして名高い“ザ フェラガモ ステューディオ”よりメンズアイテムであるブリーフケースが初登場した。上質なレザーを用い、イタリアの熟練職人の手作業で仕上げる。マチ幅を抑えたスタイリッシュな美観だけでなく、ブランドを代表するモチーフのガンチーニを模したメタルクラスプは、片手でも開閉できる機能性を備える。

バッグ27万5000円、ジャケット28万6000円、ニット11万5500円、シャツ6万8200円、パンツ7万4800円、腕時計12万7600円(以上フェラガモ／フェラガモ・ジャパン)、その他はスタイルリスト私物



Ferragamo / フェラガモ

in Your

CLOSET*

秋のお洒落はグレンチェックのジャケットから。

深まる秋の気配に、ジャケットのお洒落を楽しみたい。グレンチェックなら季節感と優雅さを演出し、タイトアップはもちろん、タートルネックなども合わせやすい。ビジネスからカジュアルまで守備範囲も広い。

Dior / ディオール

Caruso / カルーゾ

Brunello Cucinelli / ブルネロ・クチネリ

Sartorio / サルトリオ



ブルネロ・クチネリの
“アンコンストラクテッド
ジャケット”



サルトリオの
“ジャージジャケット”



ディオールの
“ダブルジャケット”



カルーゾの
“オーバーグレンチェック
ジャケット”

D

ほのかに浮かぶグレンチェックは、ビジネスでも違和感なく、様々なシーンに対応。バージンウールとコットンを混紡した上質な生地を用い、ハンドメイドを随所に取り入れることで、リラックスしつつ構築的なシルエットを実現する。サイドベンツも機能的で、美しさにも配慮されている。

ジャケット17万8200円(サルトリオ/ストラスブルゴ カスタマーセンター)、ニット3万9600円(ストラスブルゴ/ストラスブルゴ カスタマーセンター)、ネクタイ3万3000円(キートン/ストラスブルゴ カスタマーセンター)、パンツ8万3600円(ロータ/ストラスブルゴ カスタマーセンター)、その他はスタイリスト私物

C

ベージュとブラウンのニュートラルカラーが素材の上質感をより引き立てる。ウールに少量のシルクを加えることで、張りとなめらかな風合いをもたらすのだ。アンコン仕立ての軽やかな着心地に、ピークドラペルとフラップポケットのフォーマルなスタイルを組み合わせ、ラグジュアリーな個性を醸し出す。

ジャケット64万9000円、ニット14万8500円、シャツ7万9200円、パンツ15万4000円、ポケットチーフ2万9700円、ボーチ15万4000円(以上ブルネロ・クチネリ/ブルネロ・クチネリ・ジャパン)、サングラス5万5660円(ブルネロ・クチネリ&オリバーピープルズ/ルックスオティカジャパン カスタマーサービス)

B

最高級の14.5ミクリンのウールを採用し、柔らかな肌触りと包み込むようなフォルムを表現する。ラベルのゴージはやや低めに設け、ウエストをゆるやかに絞ったシルエットはモダニティを演出。ブラウンベースのグレンチェックに入ったボルドーの大柄なウインドーベンが、艶やかに着る者を印象づける。

ジャケット20万6800円(カルーゾ/エストネーション)、シャツ2万4200円、ニット3万3000円、ネクタイ1万8700円(以上アーディー・アンド・シード/エストネーション)、パンツ2万9700円(エストネーション)、その他はスタイリスト私物

A

グレンチェックは、プリンスオブウェールズチェックとも呼ばれ、王子が好んだことでも知られる。ムッシュ・ディオールもこの柄をこよなく愛し、アーティスティック・ディレクターのキム・ジョーンズは定番の2ボタンダブルに採用した。ネップのクラシカルな印象にくるみボタンなど細部にもこだわる。

ジャケット45万円、ニット19万5000円、パンツ11万円、バッグ44万円、サングラス9万円(以上ディオール/クリスチャン・ディオール)

GIORGIO
ARMANI

お家芸の軽やかな仕立てが
優雅さの演出にひと役買う。

〈ジョルジオ アルマーニ〉は、テイラード服に“快適さ”という新しい価値観をもたらした先駆者。“アンコン”という呼称が定着する遙か前から、パッドや芯材を省いた仕立てで、軽やかな着心地を追求してきた。このコートでも、そのお家芸を存分に楽しめる。なめらかなカシミヤ生地を表裏で繋ぎ合わせるダブルフェイス仕立てを採用することで、羽根のような着心地にして張りを持たせることに成功。優雅なドレープからは、貫禄が滲み出る。

カシミヤにごく少量のポリエステルを混紡し、しなやかさと軽さに拍車をかけた。肩線を落としたドロップショルダーが、力の抜けた装いを印象づける。コート106万7000円、ジャケット33万円、ニット15万4000円、パンツ14万6300円、シューズ15万4000円(以上ジョルジオ アルマーニ／ジョルジオ アルマーニ ジャパン)、その他はスタイリスト私物

いくらカジュアル全盛でもコートだけは話が別。
**上司の貫禄アップは
“ダブル”にご利益あり。**

ビジネスの装いがカジュアルになった今だからこそ、上質なコート選びが、社会的地位や風格の違いを印象づけるポイントとなる。なかでも効果テキメンなのが、やっぱりダブルのコート。とりわけそれが、一流ブランドがクオリティを堅持する逸品なら、貫禄アップの願いは成就するに違いない。

写真：野口貴司、正重智生、スタイリング：中川原 寛、ヘア&メイク：松本 恵

文：遠藤 匠 構成：大嶋恵子

photo : Takashi Naguchi, Tomoo Saito(BOIL) styling : Kuni Nakagurara(CaVN)
hair&make-up : Megumi Matsunoto text : Takanori Endo composition : Keiko Oshima



BRIONI

ブランド創設75周年を記念してデザインされたモデル。コート112万2000円、グローブ10万7800円、スカーフ6万8200円(ブリオーニ/ブリオーニ クライアントサービス)

格式の高さを感じさせる配色が貫禄をもたらす。

ロイヤルブルーが目を引くこのコートは、〈ブリオーニ〉を象徴するダブルスプリッタブル仕立て。これは、2枚のカシミヤを丹念に縫い合わせ、一枚の生地のように仕上げる職人技のこと。この製法が柔らかに隆起させたラベルで、威風堂々とした佇まいに導く。

POLO
RALPH LAUREN

高めのゴージラインが、精悍な印象。コート20万9000円、マフラー参考商品(以上ポロ・ラルフ・ローレン/ラルフ・ローレン)

ポロ競技に端を発するコートで品よく軽快に。

19世紀後期に英国のポロ選手が着用したウエストコートを原型とするポロコートを、ファッションに昇華。ターンナップ袖やフレームドパッチポケットといったディテールを踏襲する一方、ブラウンを基調とする上品なグレンチェック柄で華やかさを印象づけた。

BRUNELLO
CUCINELLI

軽快な着丈や深すぎない前合わせは、カジュアルにも馴染む。コート89万1000円、マフラー7万7000円(以上ブルネロ・クチネリ/ブルネロ・クチネリ ジャパン)

希少素材の心地よさと暖かさの虜になりそう。

マリンコートに着想を得た風格ある佇まいながら、アルパカウールを贅沢に使った着心地はふんわり軽い癒し系。主張を抑えたワントーンのグレンチェックやヴィンテージ加工のメタルボタンも見どころ。そんな演出の巧みさが、着る人の個性を引き立てる。



LORO PIANA

故セルジオ・ロロ・ピアーナ氏が愛したアルスタークロートを現代的に再提案。コート132万8800円、マフラー7万3700円(以上ロロ・ピアーナ/ロロ・ピアーナ ジャパン)

突然の雨でも慌てずに街を颯爽と歩ける。

カシミヤコートは雨が大敵だが、この1着なら突然のスコールでも慌てる必要なし。“レインシステム”と呼ばれる加工で、素材の風合いを損なうことなく撥水性を付与。水滴が玉状に弾かれ、汚れにも強い。アルスターカラーのラベルも力強く、頼もしい印象に。



JIL SANDER

上襟の幅が広いラベルは、ボタンを閉じると首元にボリュームが生まれる。コート43万4500円、バッグ8万8000円(以上ジルサンダーバイルーシー・アンド・ルーケ・メイヤー/ジルサンダージャパン)

都会的な黒コートも余裕を感じる素材感で。

ゆとりのシルエットや丸みを帯びたドロップショルダーから、ダブルコートのイメージをいい意味で裏切るリラックス感が感じられる1着。肩甲骨から下の裏地を省いたハーフライニング仕立てで、上質なバージンウールがもたらす優しい着心地を引き立てた。

ETRO



ウエスト位置を高く見せる視覚効果が期待できる共布のベルトは、付け外し可能。コート35万2000円、スカーフ5万8300円(以上エトロ/エトロジャパン)

個性のアピールは後ろ姿でもさりげなく。

キャメルカラーが映えるウールカシミヤコートは、振り向いた際に〈エトロ〉らしさを感じられる。アームの袖付け部分から袖口に向かって走らせた幾何学模様のパイピング風ディテールが、さりげない見どころに。裏地のペイズリー柄も目を楽しませてくれる。



MACKINTOSH

コート14万9400円(マッキントッシュ/マッキントッシュGINZA SIX店)、バッグ4万2900円(ダニエル&ボブ/ダニエル&ボブジャパン)

久しぶりのトレーニチを選ぶなら、思い切ってアップデート。

ベーシックなトレーニチコートに食傷気味なら、街映えするグレートーンのグレンチェックで目新しさを。生地自体も定番のコットンギャバジンではなく柔らかなウール製。ゆつたりと着られるほどよいオーバーサイズ感も、今の気分にしつくりくるに違いない。



LARDINI

アンコンながら、美しくシャープな肩線を描く仕立てが白眉。24万7500円(ラルディーニ/トヨダトレーディング ブレスルーム)、その他はスタイルリスト私物

カラダを優しく包み込み、グラマラスなフォルムに。

幅広のピークドラペルが胸元に立体感をもたらすチェスター コート。カラダのラインを美しく整えてくれる身頃や袖の立体シルエットも、上質なカシミヤを贅沢に使っているがゆえに描けるもの。上襟のブートニアールは、ブランドを象徴する装飾品として付属。

FENDI

使い分けられるふたつの顔は、
甲乙つけがたい品のよさ。

優しいトーンのベージュは、ダブルコートでまとうと、年を重ねた大人だからこそ醸せる包容力や余裕を感じさせてくれる。しかもこのコート、実はふたつの色のカシミヤを張り合わせたダブルクロス仕立て。裏返せば白コートとして着用することもできる。どちらの配色も品があり、甲乙つけがたい魅力がある。気分や装いで色を使い分ける楽しさがある一方、前開きで着て裏面の配色をさりげなく見せれば、一目置かれる装いにも導けそうだ。

ボタンと配色を揃えた色使いは、ホワイトコートの面で着用する際も同じ仕様。ホワイト面は、3つのポケットがすべてパッチポケットとなる。コート83万6000円、ニット12万6500円、シャツ9万5700円、パンツ9万2400円、バッグ77万円（以上フェンディ／フェンディ ジャパン）、その他はスタイリスト私物





大

人ならカジュアルな装いにこそ、手抜きは禁物。そこが手薄になると、どこか寂しげな印象を人に与えがちに。そこで〈エンポリオ アルマーニ〉の出番。ラグジュアリーブランドの中でも、カジュアルが得意で、安心して大人が着られるゆったりしたシルエットのアイテムも揃っている。

さらに、工夫を凝らしたテーマやカラーパレットが秀逸で、“北極”というテーマのもと、大地を思わせるベージュや雪を想起させるホワイト、海のディープブルーといった具合に、地球のニュートラルなカラーパレットを効果的に採用。加えて大胆な柄やワッペン使いなど、ほどよい大人の遊び心が盛り込まれたアイテムの数々は着こなしに変化を与える。

特に、アウターは充実度が高く、シルエットはどれもたっぷりとしたサイズを展開。件の遊び心も加わって、さらりと羽織るだけで“今どき”感が演出できる。

それでいて、エシカルな素材使いとなれば、大手を振って週末スタイルが楽しめるというものだ。

EMPORIO ARMANI

5シーズンめを迎えた〈エンポリオ アルマーニ〉の
サステナブルコレクション。

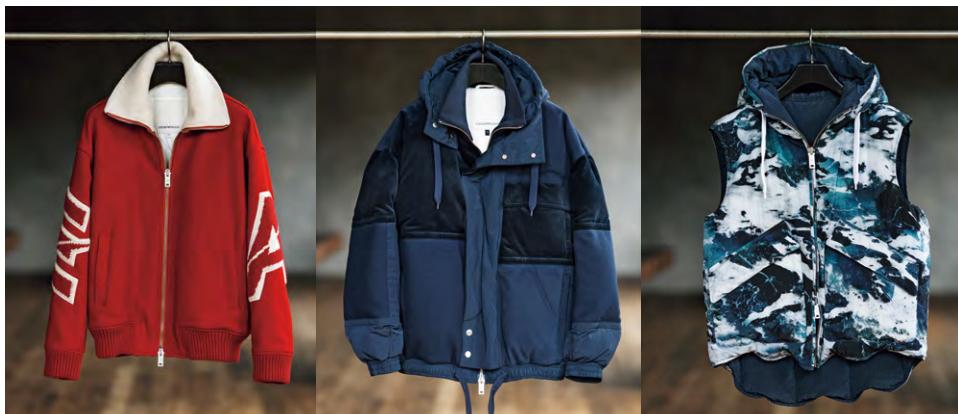
カジュアル上手のアウターは
余裕のシルエットにエシカル素材。

“サステナブルコレクション”を発表してきた〈エンポリオ アルマーニ〉。5シーズンめとなった今冬は、廃棄素材などを効果的に取り入れつつ、“北極”をイメージして作り込まれた色あざやかなアウターが目を引く。ゆったりとしたシルエットは、どれも着やすくて今どき。だからデイリーに袖を通してくなる。休日カジュアルの主役として、まさに適役だ。

写真=野口貴司 スタイリング=中川原 寛 ヘア&メイク=松本 恵 文=長谷川茂雄 構成=大嶋慧子
photo : Takashi Noguchi styling : Kan Nakagawara (CaNN)
hair&make-up : Megumi Matsumoto text : Shigeo Hasegawa composition : Keiko Oshima

袖の“EA”レターが目を引くジップアップブルゾン。リサイクルウールを使用したボディは、ドロップショルダーのゆったりシルエットで、羽織るだけで“今どき感”を演出。ブルゾン15万4000円、カットソー3万9600円、パンツ4万1800円、手に持った帽子4万9500円(以上エンポリオ アルマーニ／ジョルジオ アルマーニ ジャパン)

Information —
11/2(水)～8(火)、伊勢丹新宿店 メンズ館1階 ザ・ステージにて、サステナブルコレクションのポップアップを開催。先行発売アイテムを含めフルラインナップを展開。詳細は“エンポリオ アルマーニ サステナブル コレクション”公式サイトをご覧ください。



右:伊勢丹新宿店先行発売となるフーデッドベスト。撥水リサイクルナイロンのリバーシブル仕様。17万3800円 中:廃棄生地を使ったダウンジャケット。ウールやナイロンを切り替えたデザインが都会的。24万2000円 左:中綿入りのリサイクルウールブルゾン。15万4000円(以上エンポリオ アルマーニ／ジョルジオ アルマーニ ジャパン)

MOORER

100%イタリア製の〈ムーレー〉はひと味違う。

大人の風格があふれ出る ラグジュアリーダウン4選。

冬本番、まず手に入れたい主役アウターといえばダウンジャケットだろう。本命は、上質さはもちろん、“着膨れ”しないシティ派デザインのもの。イタリア・ヴェローナ生まれの〈ムーレー〉が放つ新作は、そんな理想を体現する見た目と上品さを兼備する。高品質グースダウンを使用した真のラグジュアリーアウターは、着た瞬間に大人の風格があふれ出る。

写真=野口貴司 スタイリング=中川原 寛 ヘア&メイク=松本 恵
文=長谷川茂雄 構成=大嶋慧子

photo : Takashi Noguchi styling : Kan Nakagawara(CaN) hair&make-up : Megumi Matsumoto
text : Shigeo Hasegawa composition : Keiko Oshima



リブ襟とジップ付きの前立て
バーツは着脱できる仕様。取
り外せばVゾーンはすっきり。
着こなしに合わせて楽しめる



フードは二重構造。内側のブ
ラックのフード部分と前立て
は着脱可能。重ね着やマフラ
ー アレンジの際に重宝する



ボリュームのあるムートンフ
ラーは取り外しが可能。チンス
トラップ付きだから、防寒のた
めに襟を立てて固定もできる

C A
D B



ニット袖とフードを取り外せ
ば、シンプルなダウンベスト
に早変わり。リラックスした
週末カジュアルにも最適

D

ボリューム満点のボディを短丈に仕上げた“エレニオ”。大きなフードを配したシルエットバランスは、モードな雰囲気を演出する。スタイリッシュなオフホワイトとブラックのバイカラーだから、冬のモノトーンスタイルの主役になりそう。

ブルゾン30万8000円(ムーレー／コロネット)、パンツ4万7300円(スコッチ アンド ソーダ／コロネット)、バッグ3万8500円(ハンティング・ワールド／ハンティング・ワールド帝国ホテル店)、その他はスタイリスト私物

C

モダンで上品な、セミダブルブレストモデルの“イト”。防水性能の高いファブリックを使用したアクアコレクションに属するこちらは、雨や雪に強いのが持ち味。ダウンでありながらスリムなシルエットが魅力で、オン・オフ両面で活躍する。

ジャケット26万4000円(ムーレー／コロネット)、ニット2万2000円、パンツ2万8600円(以上スコッチ アンド ソーダ／コロネット)、その他はスタイリスト私物

B

ハイブリッドタイプの“ベンソ”は、ボディが上質なウール、袖部分はウールニットというユニークなデザイン。ニット袖とフードは取り外しができるため、レイヤードスタイルがあれこれ楽しめて、活用シーンもかなり広い。

ブルゾン36万3000円(ムーレー／コロネット)、カットソー2万8600円(ヴィルーム／コロネット)、パンツ5万600円(ドッピア アー／コロネット)、バッグ19万8000円(ハンティング・ワールド／ハンティング・ワールド帝国ホテル店)、その他はスタイリスト私物

A

グレージュ×グレーの配色が都会的なボンバージャケット“ヴィアーニ”。ナイロンと、ウォータープルーフ機能を備えたウールフランネルで切り替えたコンパクトボディは、シャープなパンツとも好相性。上品ミリタリーの決定版。

ブルゾン33万円(ムーレー／コロネット)、ニット7万9200円(ヤコブ コーエン／ヤコブ コーエン 東京ミッドタウン店)、パンツ4万700円(スローウエア テクノサルトリアル／伊勢丹新宿店)、その他はスタイリスト私物



ートをアップデートするなら、能ある鷹はなんとやら……。今年は“見た目シンプル、でもその実すごい”を体现した1着を選んでみたい。なぜなら、そのものズバリを満たすチェスター コートが、〈ヘルノ〉から登場したからだ。

少し余裕のある身幅が今どきの雰囲気を醸し出すこちらは、まず着心地がいい。また、過度なボリュームがないにもかかわらず、袖を通すとしっかり暖かい。それもそのはず、ソフトな風合いのボディを触ってみれば、うっすらと中綿ライニングが入っているのがわかる。さすが、軽量かつラグジュアリーなアウターを得意とするイタリア屈指の名門が手掛けた定番は、アイデアも技術も折り紙つきだ。

そして最大のポイントは、前立てが一体となったマットナイロンのフードが付属する点。これが取り外し可能というところも思わず膝を打つ。寒さ厳しい朝に、スポーティなパーカとのレイヤードが簡単にできるのだから、これは嬉しい。

〈ヘルノ〉の新作は、まさに“爪を隠した鷹”的なアイテム。その本領は、是非とも袖を通してお試しあれ。



前立て一体型のフードを取り外せば、Vゾーンはすっきり。チェスター然となる見た目となるため、着こなし方も印象も変わる。気温や気分でセレクトしたい

HERNO

〈ヘルノ〉が手放せない理由は、その着心地と機能性。
今どきのチェスター コートは
オフでも使えるパーカ付き。

オン・オフともに使える汎用性が高いチェスター コートだが、〈ヘルノ〉の新作は、さらにワンランク上の快適さを叶える。うっすらと中綿を封入した気品あふれるボディは軽量で暖かく、デタッチャブルの前立て一体型フードも装備。見た目はいたってシンプルでありながら、その秘めたポテンシャルで、着こなしの幅を何倍にも広げてくれる。

写真=野口貴司 スタイリング=中川原 寛 ヘア&メイク=松本 恵 文=長谷川茂雄 構成=大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara (CaNN)
hair&make-up: Megumi Matsumoto text: Shigeo Hasegawa composition: Keiko Oshima

CHESTER COAT

【チェスター コート】

前立てが一体となったフードを取り付けると、カジュアルな着こなしも思いのまま。黒いパンツを合わせると、都会的な印象がいっそう増す。一方ビジネスではフードを外し、伝統的なチェスター フィールド型のウールコートとして活用。品格ある大人の印象へと導びける。

前立ての部分はリサイクル素材であるマットナイロンを使用し、エコ・サステナブルにも配慮している。コート16万3900円(ヘルノ／ヘルノ・ジャパン)、その他はスタイルストラップ

JOHN LOBB

最高峰を知る大人が選ぶ〈ジョンロブ〉。

名作が“黒スウェード”になると 貴禄もお洒落度もますます圧倒的。

表革にはない優しい風合いで、足元に柔らかなニュアンスを与えてくれるスウェードシューズ。特に黒革の場合は、ベルベット顔負けの上品さを印象づけられる。しかもそれが最高峰と名高い〈ジョンロブ〉が手掛けた1足ともなれば、醸し出される貴禄も雲上級となる。名靴と呼ばれる3型のいずれかで、秋冬の装いを品よく仕上げてみてはいかがだろう。

写真=正重智生 スタイリング=中川原 寛 文=遠藤 匠 構成=大嶋慧子
photo : Tomoo Syoju(BOL) styling : Kan Nakagawara(CaVN) text : Takumi Endo composition : Keiko Oshima

LOPEZ

[ロペズ]

1950年代に誕生し、世界中で愛されている名品ローファー。精円を描くザドルの窓が、特徴的な意匠として有名。木型はローファー専用の“4395”で、ほどよい丸みのラウンドトウが吸いつくようにフィットする。23万1000円(ジョンロブ／ジョンロブ ジャパン)



PHILIP II

[フィリップⅡ]

お馴染みの内羽根式のキャップトウもぐっとシックな印象に。ウエストを絞り込み、小ぶりのヒールガバナーで抑揚をつけた、シャープでエレガントな細身木型を採用。トウチップの継ぎ目に施された穴飾りも目を引く。27万7200円(ジョンロブ／ジョンロブ ジャパン)

NEWLYN

[ニューリン]

流れるようなフォルムを描くアーモンドトウが特徴的な“8695”木型を採用した、気品あふれるシングルストラップのジョドファーブーツ。日本からのリクエストを受け、今期の新色として黒スウェードがお目見えした。27万7200円(ジョンロブ／ジョンロブ ジャパン)

同

じ黒革の靴でありながらスマースレザーとはまた違う品があり、華やかさとともに貴禄も印象づけられるのが黒スウェードシューズ。柔らかく起毛されたその表情には温かみもあり、秋冬の装いの引き立て役としての期待にも応えてくれる。そんな黒スウェードの靴が、〈ジョンロブ〉の名品にもラインナップされていることをご存知だろうか。同社の真骨頂は、木型の美しさ。足の形状に心地よくフィットさせながら、それを美しく見せるために研ぎ澄まされた木型は、芸術作品と呼んでも

遜色のない完成度の高さを誇る。一方で、同社が採用するレザーも一級品。それは黒スウェードにおいてもいえることで、エルメスグループとして最高級の革を厳選しているがゆえに、柔らかく毛足を整えた裏革はまるでベルベットのような上品さをたたえている。そんな黒スウェードを芸術作品のような木型に乗せた名品の貴禄は、ご覧のとおり。その一方で、表革ほどドレス感を主張しないため、最近のカジュアル寄りのビジネススタイルにもよく映える。ここから〈ジョンロブ〉の名靴の魅力を知るのも悪くない。

Information

パリのアトリエよりマスターべーツフィッターのエマニュエル・レニエ氏が来日し、特別オーダー受注会を開催する。開催予定日は、丸の内店11/3(木・祝)、11/8(火)。名古屋松坂屋店11/4(金)。阪急メンズ大阪店11/5(土)。東京ミッドタウン店11/6(日)、11/7(月)。オーダーはすべて予約制なので、各店舗にお問い合わせください。

OMEGA

進化・復活した〈オメガ〉初代スピードマスター。
アップデートの要点は
業務も時計もスリム化にあり。

業務のスリム化は常に優先課題。より身軽になると、様々な面で効率化が進むのだから侮れない。それは時計の世界でも然り。たとえば今回ご紹介するスピードマスター'57は、初代スピードマスターのデザインを受け継ぎつつも外装をスリム化。豊富なカラー展開に加え、中身も大幅にスペックアップすることで、新時代へと対応する。

写真=正重智生 スタイリング=中川原 寛 文=岡村佳代 構成=大嶋慧子
photo: Tomoo Syoju(BOIL) styling: Kan Nakagawara(CaNN)
text: Kayo Okamura composition: Keiko Oshima

名

品時計を身につける喜びは、
なものにも代えがたいもの。

特にそれがビジネスシーンなら、仕事に対するモチベーションを左右する存在になりえることもある。世界で最も有名なクロノグラフである〈オメガ〉の“スピードマスター”はまさにそんな時計のひとつ。そして1957年の誕生から65年を迎えた今、この名品ウォッチがスタイルッシュに進化し、多くのビジネスマンからの注目を浴びている。

初代モデルのデザインを継承しながらも、ディテールをモダンにアップデートしたこの新しい“スピードマスター'57”。以前のモデルとの大きな違いは手巻きムーブメントを採用することでケース厚がシュッとスリムになったこと。同時にベゼルもスリム化し、本来スポーティな印象のクロノグラフに軽快さとエレガントさが加わった。また、4色展開となったダイヤルカラーも深く落ち着いたトーンが絶妙で、今どき感があり。クラシックな時計デザインの魅力をさらに引き出す効果もあるため、間違いなくエグゼクティブクラスのスーツ映えも約束してくれそうだ。あとは、こんな時計をかっこよくつけこなせるよう、ご自身のスリム化もお忘れなく。



右上:極上の装着感を約束する薄さ12.99mmのケースは、横顔の表情も都会的。右下:ムーブメントの凝った仕上げもこの美しさ 左:“スピードマスター'57”はアンバサダーのジョージ・クルーニーにもよく似合う



SPEEDMASTER '57

[スピードマスター'57]

ダイヤルは、ブルー、バーガンディ、グリーン、そしてサンドブラスト仕上げが施されたブラックの4色のバリエーションで展開。ムーブメントは“コーアクシャルマスタークロノメーター キャリバー9906”で、その美しい仕上げをサファイアクリスタルのケースパックから目で楽しむことができる。ケース径40.5mm、手巻き、SSケース、5気圧防水。上、中右:レザーストラップ各114万4000円、中左、下:SSプレス各118万8000円(以上オメガ/オメガお客様センター)

アイスブルーの上質時計なら
気分もお洒落度も上がり放題。

いまやラグジュアリースポーツウォッチ全盛の時代。そんな中、高いファッショニ性で存在感を放っているのが〈ベル&ロス〉だろう。航空機に着想を得た個性的なデザインに高精度ムーブメントを宿したタイムピースは、時計通だけではなく世界のファッショニスタも虜に。そしてそんなブランドから、爽やかな文字盤が上品なインパクトを放つ“BR-X5 Ice Blue Steel”が登場した。手にした瞬間から気分爽快。ほかにはないカラーだけに満足度もだいぶ違う。さらに白やブルー系アイテムと合わせると、爽やかさは倍増。黒やグレーのアイテムとなら、手元でポイントカラーとして際立つのはご想像どおり。こんな爽快時計があれば、きっと休日が待ち遠しくなるのでは？

BR-X5 Ice Blue Steel

[BR-X5 アイスブルー スタイル]

独創的なスクエアケースと、四隅にあしらわれたビスという〈ベル&ロス〉のアイコニックなデザインにアイスブルーの文字盤が爽やかな個性を發揮。ケニッッシ社とのパートナーシップによって開発された新ムーブメントは約70時間のパワーリザーブを誇り、COSC認定のクロノメーター規格を保持。5年間の国際保証付き。ケース径41mm、自動巻き、SSケース＆ブレス、100m防水。92万4000円（ベル&ロス／ベル&ロス 銀座ブティック）

ラバーベルト付き



右:フェイスと同色のラバーストラップタイプも。85万8000円（ベル&ロス／ベル&ロス 銀座ブティック） 左上:ケースバックから鑑賞できるマニュファクチュールムーブメント 左下:ケース厚は12.8mmで装着感も抜群

Bell & Ross

すっきりクリアな気分になれる、今度の〈ベル&ロス〉。

**あえての“爽快フェイス”が
都会派の休日にもってこい。**

カフェでゆったりランチ？ それともジムへ？ いつもよりゆっくり起きた週末こそ、自分らしく楽しいひとときを過ごしたいもの。そんなとき、気分をフレッシュにしてくれる時計があれば、心も躍るというものだろう。たとえば〈ベル&ロス〉の最新作はまさにそんな時計。アイスブルーの文字盤が見るたびに清々しい気分を誘い、お洒落したくなる気持ちも高まるに違いない。

文=岡村佳代 構成=大嶋慧子
text : Kayo Okamura composition : Keiko Oshima



右:シャープな黒字盤の“BR-X5 ブラックスタイル”は、“アイスブルー スタイル”的な色違いで、ひと味ちがう精悍な表情で魅せる。92万4000円 左:ラバーストラップならよりカジュアルな印象に。85万8000円（以上ベル&ロス／ベル&ロス 銀座ブティック）



リブとボディの濃淡の違いで際立つ立体的なニュアンスは4色でそれぞれ異なり、それがひとつの個性に。タイトすぎず、ゆるすぎもない絶妙なシルエットは、1枚で着ても絵になり、インナーにした際はもたつかない

AOURE

品のよさとモダンさを併せ持つ〈アウール〉。

**快適ニットが“モックネック”なら
ジャケット姿も見映えがいい。**

ジャケット姿の名脇役がニット。今期は〈アウール〉のモックネックはどうだろう。上品でほどよく立体感のある襟元には、丸首のようなもの足りなさがなく、タートルネックの窮屈感もない。クリエイティブディレクターを戸賀敬城、デザイン監修を橋本 淳が務める注目ブランドの1着なら、ジャケット姿も見映えよく仕上がるだろう。

写真=野口貴司、正重智生 スタイリング=中川原 寛 ヘア&メイク=松本 恵 文=遠藤 匠 構成=大島慧子
photo : Takashi Noguchi, Tomoo Syoju(BOIL) styling : Kan Nakagawara(CaNN)
hair&make-up : Megumi Matsumoto text : Takumi Endo composition : Keiko Oshima

NEVE

[ネーヴェ]

極細のエクストラファインメリノウールを贅沢に使い、驚きのなめらかさを実現した1枚。糸の段階で施す染色と、フェード感を生み出すスノーカーブ加工を駆使し、くすんだ独特の濃淡を雰囲気よく表現した。各1万9800円(以上アウール／アウール阪急メンズ大阪)



右:袖ぐりの編み地を工夫し、腕の可動域も確保 左:色の浸透度の違いで濃淡を表現。編み地でグラデ感が微妙に異なるため、単色ながら単調に見えず、こなれた雰囲気に



黒ライダースの装いを
グレーモックで上品に。

ライダースを主役にした上下ブラックの装いに、グレーの“ネーヴェ”を合わせるとこんなにシックに。グレーの濃淡が黒にすっと馴染み、軽快さと品のよさをもたらしてくれる。ブルゾン6万4900円、パンツ1万9800円(以上アウール／アウール阪急メンズ大阪)、シューズ2万6400円(コールハーン／アウール阪急メンズ大阪)、その他はスタイリスト私物



何枚持っていても便利なモックネック。

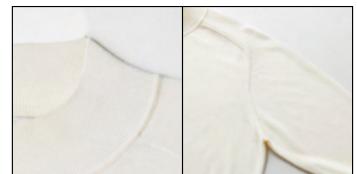
タートルの上品さと丸首の気軽さのいいとこ取りが叶うモックネック。この2型は表情こそ違うものの、双方ともカジュアルにもジャケット姿にもよく映え、違いをもたらしてくれる。色や型に迷ったら大人買いという選択肢も。



FIORE

[フィオーレ]

こちらは、上品な光沢と発色の美しさにこだわった、防縮加工のウール仕立て。襟の高さやアームホールのフィット感、袖丈は、ジャケットにインした際の快適さと見映えに配慮してバランスを調整した。各1万9800円(以上アウール／アウール阪急メンズ大阪)



右:ラグラン袖が肩のラインに自然にフィットし、すっきりシルエットを演出 左:首のラインに美しく沿うリブ襟は、ジャケットの中に着た際、ほどよく主張する絶妙な高さ



モデル着用のオフホワイト、写真のグリーン、オレンジのほか、キャメル、ネイビー、ブラックの全6色展開。水に濡れても繊維のスケールが開かない防縮加工を施しているため、上質ウール特有の柔らかな肌らみや風合いのよさを長く保てる。小雨程度なら気にせず着られる撥水性も備わり、自宅で手洗いできるイージーケアな点も魅力

Information

好評につきニューショップが続々と登場している〈アウール〉。今後もお見逃しなく。アウール大丸東京8F ☎03-6895-2381 ジェイアール名古屋タカシマヤ8F ☎052-566-3979 博多阪急6F ☎092-419-5639、また阪急メンズ東京4F ☎03-6252-5480もリニューアルオープン。



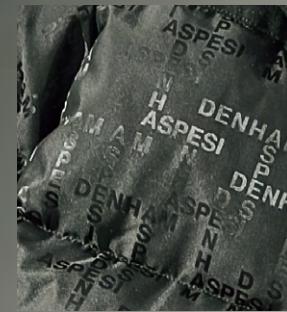
DENHAM×ASPESI DOWN JACKET & DENIM

[デンハム×アスペジ ダウンジャケット&デニム]

両肩に7オンスのデニムを施したダウンジャケットは、リサイクルダウンを採用。デニムパンツは腰や太腿がビタビタにならないスリム感が人気の“レイザー”で、ポケットのミリタリーディテールに加え、ボタンやレザーパッチも今回のコラボのための特別なデザイン。ダウンジャケット13万3100円、デニムパンツ5万2800円(以上デンハム×アスペジ／デンハム・ジャパン)、スニーカー2万9700円(デンハム×コンバース／デンハム・ジャパン)

仕

事に限らず、お洒落においても過去の“成功体験”を振りどころにすることは多い。冬の街で黒のダウンジャケットをよく見かける理由も、おそらくこの色で「都会的な演出が叶った」といった経験を多くの人がしているからだろう。ただ、その“成功体験”に固執しすぎて新しい発見の機会を逃したり、まわりに埋もれてしまうのは少しもったいない。そこで注目したいのが、〈デンハム〉と〈アスペジ〉がコラボした新作だ。こちらのダウンジャケットは、ただの黒にあらず。光の当たる角度によって、双方のブランド名をモチーフにした同色のグラフィックがほんのり浮かび上がる。黒デニムで切り替えられた肩ヨークでも、新鮮さを印象づける効果も期待できそうだ。また、そんなデニムディテールと、コーディネートをリンクさせるのにうってつけなブラックデニムも用意されている。オーガニックテキスタイルの世界基準であるGOTS認証を得たストレッチ生地を用いたこのデニムもまた、味のある色落ちで表情豊か。合わせてまとい、去年のダウンジャケット姿から一歩踏み出してみてはどうだろう。



ダウンジャケットの表地には、双方のブランド名を交差するように描いたグラフィックを縫柄としてプリント。同色ゆえ過度に目立つことはなく、明らかな違いを印象づけられる

DENHAM

今どき感が際立つ〈デンハム〉と〈アスペジ〉のコラボ作。
去年と違うダウン着こなしに
“表情豊かな黒”が効く。

ダウンジャケットの装いを、間違いなく都会的に見せてくれる色といえば黒。ただ、毎年同じような黒では新鮮味がなく、お洒落本来の楽しさも半減する。その点、〈デンハム〉と〈アスペジ〉がタッグを組んだ黒ダウンは、街に映える一方、その表情に目新しさがある。お互いを引き立て合ってくれるデニムと一緒にまとい、去年の冬とは違う“黒”を味方につけてはどうだろう。

写真=丸益功紀 スタイリング=中川原 寛 文=遠藤 匠 構成=大嶋慧子
photo : Kouki Marueki(BOIL) styling : Kan Nakagawara(CaNV)
text : Takumi Endo composition : Keiko Oshima

Hope you have a healthy day.

GOOD SLEEP HOTEL*

快眠ステイでいつもと違う目覚めを体感できる。

最近、ぐっすり眠れていますか？上質な睡眠をとることは、脳のパフォーマンスを最大限に生かす条件。ビジネスマンとしては自己管理のひとつといえそう。とはいっても、つい睡眠負債を抱えてしまいがち。であれば、睡眠に特化したホテルで快眠体験を。

文=古関千恵子 text: Chieko Koseki

01 睡眠改善学をベースにした癒しの時間を過ごす。 リーガロイヤルホテル(大阪)

22

階に作られた“森”をテーマにしたスイートルームでは、睡眠改善学をベースにした寝具メーカー(IWATA)監修の“癒し×快眠ステイ”で良質な睡眠を手に入れられる。このプランは、チェックインからアウトまでを4つのステップにわけた行動を提案。ステップ1ではスムーズな寝つきに繋がる“活動・運動”として、スイミングクラブ内のプールやサウナで汗を流す。“リラックス”を目指すステップ2は睡眠を誘うカモミールをベースにした入浴剤でバスタイム。

〈アスレティア〉のアロマオイルで気分をほぐし、室内調光も徐々に落として光環境も整える。そして、ステップ3は“睡眠”。(IWATA)の自然派高機能寝具一式で、いざ眠りの中へ。最後のステップ4は“目覚め・活動”。すっきりと目覚めた後、軽い運動や短い入浴、そして朝食でカラダのリズムを整える。そう、これぞ快眠のための生活サイクル。

DATA

④大阪市北区中之島 5-3-68
☎06-6448-1121
<https://www.rihga.co.jp/osaka>



C

A

B



03 海を一望できる環境でカラダをリセット。 ザ・シーン



A:1日のはじまりは朝日を浴びながら行う海を目の前にしたホテルガーデンのウッドデッキでのヨガから。視界に人工物が入らない自然の中でとびきりの開放感が味わえる B:4階建て21室の客室すべてがオーシャンビュー。白を基調としたシンプルなデザイン。3~4階はもちろん、2階でも海のパノラマビューが C:就寝前の快眠ヘッズスパ。硬まってしまった頭皮をほぐされているうちに、夢の中へ

空

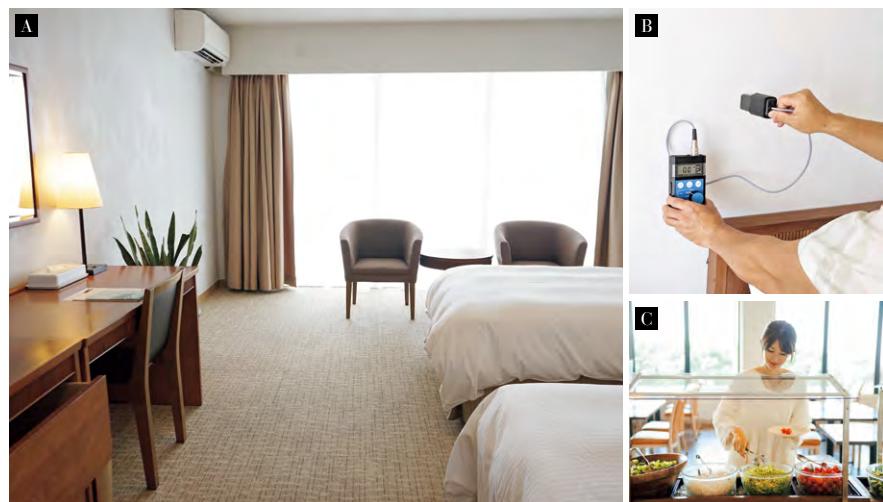
港からクルマで約2時間、奄美大島の南端に位置。邪念の入らない大自然の中でウェルネスな滞在に専念できる。2泊3日の“快眠体質プラン”では、本来の目覚めを手に入れられる。朝にヨガ、地面を歩いて電磁波を外に流すセルフケア、夜にキャンドルヨガと、カラダも心もリラックス。施設内の天然温泉もカ

ラダを芯から温め快眠へ導く。客室には〈エムール〉の寝返りが楽なマットレスを用意。大きな窓からはオーシャンビューを望める。カーテンを開けたまま就寝すれば、月明かりを浴びて眠り、水平線から昇る朝日で目覚められる。

DATA

④鹿児島県大島郡瀬戸内町蘇刈970
☎0997-72-0111
<https://hotelthescene.com/>

02 非日常のリラックス感で目覚める贅沢。 EMウェルネス 暮らしの発酵 ライフスタイルリゾート



A:自然素材100%の珪藻土を使用した“いこい”。室内の観葉植物は空気清浄作用の高い種の、サンスペリア B:珪藻土の壁に加え、電磁波対策を施した“ホールアースルーム”。電磁波の基準値をクリアし、部屋にいるだけでデジタルデトックス!? C:直営農場の有機栽培の野菜や無投薬・飼いのニワトリの卵など、地元食材を中心とした食事。入眠をサポートする栄養素を考慮したメニュー

米

軍統治時代の年季の入ったホテルを、EM(有用微生物群)の技術を駆使して改修。建物全体が善玉菌に包まれた発酵空間というユニークなホテル。

客室は睡眠のために、五感を刺激しない工夫が随所に。なかでもコンセプトルーム“いこい”は、壁全面にオリジナル炭を配合した珪藻土を使用。調湿・空気清浄に効果大。さらに“ホールア-

スルーム”は、特殊加工した無垢フローリングなどで余分な電気を逃す電磁波対策も。ブルーライト防止のため、テレビもなし。どちらの部屋も4種類の枕から選択でき、寝姿勢と寝返りがスムーズにできるマットレスを用意。

DATA

④沖縄県中頭郡北中城村喜舎場1478
☎098-935-1500
<https://kurashinohakko.jp/>

GELATO PIQUE HOMME

快適すぎると評判の〈ジェラート ピケ オム〉。

癒しもお洒落も 満足度が神レベル。

休日のおうち時間は、疲れをリカバリーし、心とカラダを癒すために大切なひととき。それができてこそまた、仕事にも本気で向き合える。そんな時間のよき相棒が、〈ジェラート ピケ オム〉のルームウエア。いずれもとろけるように柔らかな着心地で、心とカラダを休めるのにまさに神レベルの快適さ。見た目も“整って”見えるから、気分も爽快だ。

写真=野口貴司、正重智生 スタイリング=浅井秀規
ヘア＆メイク=松本 恵 文=遠藤 匠 構成=大嶋慧子
photo : Takashi Noguchi, Tomoo Syoju(BOIL) styling : Hidenori Asai
hair&make-up : Megumi Matsumoto text : Takumi Endo
composition : Keiko Oshima

**着ているだけで癒される
見た目もお洒落なルームウエア。**

スポーツの世界では、運動後の疲労回復がトレーニングと同じくらい重要。もちろんそれはビジネスマンにとっても同じこと。ハードワークを終えた休日やオフタイムをいかにリラックスして過ごせるかが、オンラインのパフォーマンスアップに繋がるのはいうまでもない。そう考えると、ルームウエア選びは重要な要素のひとつに。どうせなら疲れたカラダや心を心底癒してくれるものを選びたい。そこで、お誂え向きなのが、〈ジェラート ピケ オム〉のルームウエア。採用している素材は、どれもとろけるように柔らかで、まさに神レベルの快適さ。冬バージョンには熱を逃しにくい加工が施されているものもあるので、着ていることを感じさせない軽さながら、カラダがじんわり温まる。締めつけ感もなく、ふわりとした素材に包まれる独特の着心地がただただ心地いい。

実は、多くのスポーツ選手もオフタイムに愛用しているというこの〈ジェラート ピケ オム〉。デザインもスマートなので、自分はもちろん、一緒に過ごすパートナーも気分よく過ごせることだろう。

Information

〈ジェラート ピケ オム〉のリミテッドコンセプトストアが期間限定オープン。アミュエスト博多11/17(木)～27(日)、阪急メンズ東京11/23(水・祝)～29(火)、名古屋松坂屋12/7(水)～25(日)。お見逃しなく。

HOT SMOOTHIE KNIT

[ホットスムーズィーニット]

熱を逃しにくいホットスムーズィー素材。至福の肌ざわりで薄手でも暖か。カーディガン8140円、パンツ7590円、Tシャツ6930円、ルームソックス2970円、ルームシューズ4180円(以上ジェラートピケ オム)







CLUB TaylorMade

ラウンドを心から楽しめる
“スポーツモチーフ”が満載。

今シーズンはアイスホッケーやベースボールなど、ブランド発祥の地のアメリカンスポーツからインスピレーションを受け、デザインしたアイテムを展開。もちろん見た目に楽しいだけでなく、快適にプレイできる素材や機能もきちんと搭載。

どちらもトップは、アイスホッケーのユニフォームをイメージしたデザインが特徴。ボップ&スポーティな雰囲気が美しい。男:ニット素材にラミネートを施したブルオーバー。防風&耐水性能を備えつつストレッチ性を確保。ダンボール構造の生地を使ったパンツは驚きの暖かさを実現。ブルオーバー1万9800円、中に着たボロシャツ1万5400円、スウェットパンツ1万5400円、キャップ4400円(以上テラーメイドアパレル／テラーメイドゴルフ) 女:こちらも同じニット+ラミネート仕様のブルオーバーだが、ウエストを絞れる仕様で、よりエレガントなボディラインを作れる。ブルオーバー1万9800円、中に着たモックネックシャツ1万1000円、スカート1万1000円、ニット帽4400円、ソックス3080円(以上テラーメイドアパレル／テラーメイドゴルフ)

TOUR TaylorMade

トッププロの声をもとに
開発した“身にまとうギア”。

ツアープロなど、競技の最前線で活躍するゴルファーから得たデータをもとに、開発テストを重ねたハイエンドライン。最新技術を搭載した、“ギア”と呼ぶにふさわしいアイテムが揃う。クラブと同様、頼りにすればスコアメイクも余裕!?

ブルゾンとパンツは、どちらも最新ギアにも採用される“マルチマテリアル”構造を導入。スwing時にストレスを感じさせないバージを使いつつ、冷えが大敵な箇所には“ストームフリース”や“サーモテック”など、冬のラウンドに役立つ高性能素材を採用。部位によって異なる最適素材を配置して、保温性と動きやすさを両立した。ブルゾン2万8600円、モックネックシャツ1万7600円、パンツ2万2000円、キャップ4400円、グローブ2420円、キャディバッグ実勢価格3万7400円(以上テラーメイドアパレル／テラーメイドゴルフ)※実勢価格は編集部調べ

TaylorMade

ふたつの顔を持つ〈テラーメイドアパレル〉。

週末ゴルフは気分で 着替えてお洒落にプレイ。

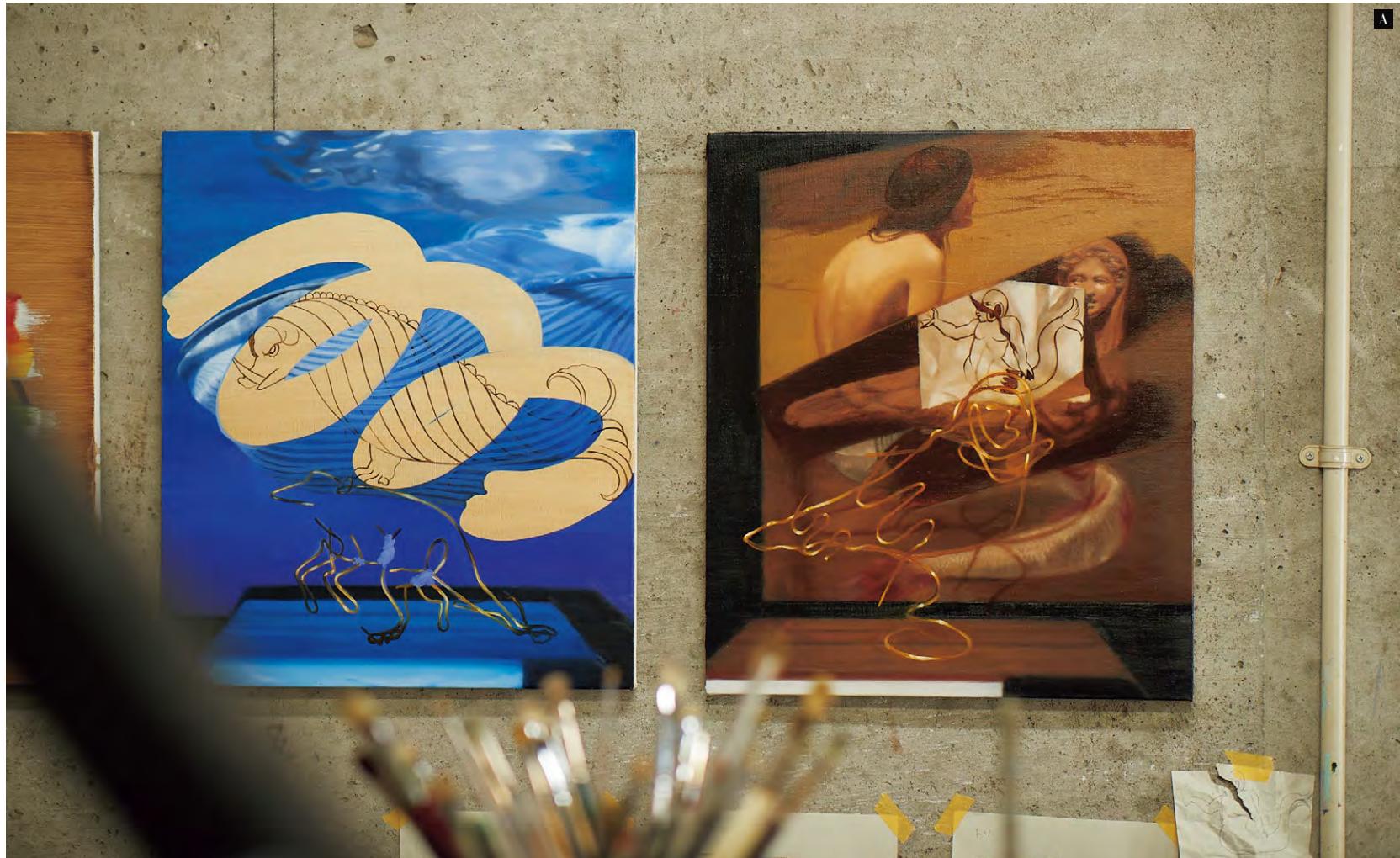
あなたのゴルフの楽しみ方は、仲間とわいわい楽しむエンジョイ型? それともスコアを追求するアスリート型? でも、意外にその日の気分やメンツで変わる“どっちも”型が多いんじゃない!? だったら、それに合わせてウエアだって着替えるのが正解。〈テラーメイドアパレル〉が提案する2ラインを着分ければ、ゴルフの楽しみ方もいっそう広がる。

写真=筒井義昭 スタイリング=Kim-Chang ヘア&メイク=堀 紗輔 文=八木悠太
photo : Yoshiaki Tsutsui styling : Kim-Chang hair&make-up : Kosuke Hori(+nine) text : Yuta Yagi



ArtSticker presents

ART INTO LIFE*



Ryoko Kumakura / 熊倉涼子



Profile
熊倉涼子

画家。多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業。歴史の中で人々が世界を理解しようとする過程で生まれたイメージを元に、絵画を制作。多面的な視点の図像を集め、それを元に作品を構成している。主な個展に、2022年「Transient Images」(日本橋三越本店美術サロン)、2018年「Pseudomer」(RED AND BLUE GALLERY)など。2021年「第34回ホルベイン・スカラシップ」奨学生。



ArtSticker
塙田萌菜美



アーツスペシャリスト。成城大学大学院文学研究科美学・美術史専攻博士課程前期修了。SBIアートオークション株式会社でオークショニア・広報・営業を担当した後、現在はArtStickerを運営する株式会社The Chain Museumにて、キュレーションやアドバイザリーを担当している。

熊倉涼子さんの絵画は、神話や星座など、時空を超えて、様々なモチーフが複雑にレイヤーされ、唯一無二の世界觀を作っています。今回はアトリエにお邪魔して、作品の制作秘話をお伺いしました。

——熊倉さんの作品の、図版の選定や厳密な構成を拝見するに、1枚の絵を仕上げるのに、どれくらいの期間がかかりますか？

熊倉涼子さん(以下熊倉) 個展が決まるところに向けてテーマを構築します。そのため資料を読み込んだり、画像を検索したりと、リサーチする期間が1カ月ほど。絵の構成をそれぞれ2、3日で設定して、描いていくという感じです。

——制作に際して、針金の制作や紙を使ったコラージュをしていますが……。

熊倉 以前はドローイングで下絵を作っていましたが、今はiPadで下絵をレイヤーさせて構成を調整します。次にモチーフを作成して並べ、撮影したら、さらにそれをもとに実際に絵を描きます。構成を決めるときにiPadで手作業をしていると、予期せぬズレが生まれることがありますが、それがまたいいなと。作品に描かれる針金は写実的で存在感があるようにも見えますし、線なので存在感が曖昧だったりする点も面白さです。針金は影が想像できないので、実際に

光を当てて描きます。

——テーマで使われる宗教的、神話的なアイコンは、どう捉えていますか？

熊倉 そうしたモチーフは“情報の塊”として捉えています。西洋の神話や日本の神話などを取り扱うことがあります。自分に深い関係性があるとは捉えていません。距離感を保ちながら、様々なモチーフをフラットに扱うようにしています。

——このスタイルをはじめたきっかけやインスピレーションの源はありますか？

熊倉 モチーフを作ることと、歴史が出来上がるまでの経緯を結びつけたいと思うようになったのがきっかけです。やっていることは引用と模写という、見て描いているだけですが、制作の過程を積み重ねていくと、自分が見たことのない新しいイメージが生まれてきます。以前はぬいぐるみを描いていましたが、ぬいぐるみは印象が強いので、モチーフだけを入れ替えて同じようなことをやりたいと思うようになりました。その傍らで古いものを調べることをずっとやっていました。モチーフは私の思考からのものではなく、サンプリングなので、モチーフが無限にあるなど。そのぶん、ひとつひとつ丁寧に扱う必要があるので、さらに調べて描くようになりました。



B



C



D

A:作中に針金で作ったモチーフが台座ごと描かれていることで、現実と絵画内の不思議な関係性を感じさせる
B:複雑な要素が幾重にもレイヤーしているのが窺える。それでいて絶妙の画角バランスをしっかりキープしている
C:“塗り絵シリーズ”折り紙やおもちゃなどをモチーフに、色を塗り重ねている
D:作品のアイデアやヒント、実験の過程が詰まっているiPad

GENTLEMAN

ひとつでも重ねても、サマになるのは〈ジェントルマン〉。

上品さと色気が香り立つ 大人好みのファインジュエリー。

年齢を重ね、お洒落の場数もそれなりに踏んできた今だからこそ、もっと積極的に楽しみたいのが男のジュエリー。あくまでもさりげなくまとうためには、そのセレクトとつけこなしが肝心。そこで注目したいのが、“紳士”にふさわしい品格と色香を併せ持つ〈ジェントルマン〉のファインジュエリー。日時計をモチーフにしたペンダントトップなど、艶やかかつタイムレスなデザインに心も輝く。

写真=丸益功紀 スタイリング=中川原 寛 文=岡村佳代 構成=大嶋慧子
photo : Kouki Marueki(BOIL) styling : Kan Nakagawara (CaNN) text : Kayo Okamura composition : Keiko Oshima



Information

HOLIDAY COLLECTION 2022 のお披露目を記念して 11/17(木)~30(水)に銀座のスペシャルティストア 和光 本店 4 階にて冬の装いを彩るジュエリーのポップアップイベントを開催。期間中は最新のアイテムから定番アイテムまでフルラインナップでご紹介。是非ご注目を。

才

ンからオフへ、ビジネスマンからひとりの男へ。ジュエリーは最高の切り替えスイッチとなる。なぜなら、仕事モードから解放されて楽しむプライベートの着こなしに、ジュエリーは個性と艶を与え、ワンランク上の洗練へと導いてくれるのだから。そのために必要なのが、品格と色気のバランス。そのさじ加減を心得たブランドを選ぶ審美眼が求められる。

そこでおすすめしたいのが“紳士”的をブランド名に冠する〈ジェントルマン〉。古代より愛されてきた宝飾品の歴史と伝統を紐解き、品格あるデザインを創造。それを日本の繊細な職人技術によって形にしたジュエリーは、気品と色気の好バランスを作り出している。こんなジュエリーならシンプルにひとつだけでも、重ねづけしてもサマになる。休日スタイルをもっと樂しみたいときに、最高の相棒になるだろう。

A:“ネックレス”18KYGチェーン16万9400円 B:“ID コレクション”18KYG&ダイヤモンドペンダントトップ11万2200円 C:“サン ダイヤル”18KYG&ダイヤモンドペンダントトップ45万9800円 D:“ネックレス”18KYGチェーン11万9900円 E:“シグネット リング”SV&18KYGリング11万8800円 F:“ボウタイ”PT850&ダイヤモンドブレスレット24万9700円 G:“ロウ エナジー”18KWG&ブルーサファイア&ダイヤモンドブレスレット26万9500円 H:“アンカー”18KYG&ダイヤモンドブレスレット24万9700円(以上ジェントルマン/ジェントルマン&カンパニー)

Behind the success of businessmen

ELEVATE YOURSELF*



Daisuke Yoneda / 米田大典

“身

近な街のなにげない道をエンターテイメント化する”。そんな新しいコンセプトでコンテンツを提供している旅アプリがある。その名も〈膝栗毛〉。利用者は、アプリ上にマッピングされたルートを歩きながら、その地域特有の歴史や文化をオリジナルマガジンで収集できる。ルート上に点在するスポットでは、GPS連動型の音声ガイドを楽しむことも。デジタルとリアルを組み合わせた新感覚の“歩き旅”で、地域の賑わいを創出することを狙いとしている。これを立ち上げたのが、三菱地所で積んだ経験を生かし、新事業提案制度を使って法人化した米田大典さんだ。

「三菱地所の本業は、オフィスや商業施設

などのハード開発を起点とした街作りです。ただ、全国にはハード開発ができない場所が多数あります。こうした地域に人の流れを作り、面白さを発見してもらえば、大切な文化や風景を残せるのではないかと、旅アプリの事業を立ち上げました。日本の再発見をとおして人の流れを作り、活力を生むこと。それが私の社会的ミッションです」

新事業を立ち上げ代表取締役となることは、やりがいを感じる一方、重責を担うプレッシャーに晒されることにもなる。そんな環境に身を投じようと決意した米田さんの背中を押し、今なお原動力になっているものがある。それは、かつて関西赴任中に出会い、のめり込むことになったロードバイク。

「関西に赴任し神戸に住んでいたとき、山を走るツーリングに誘われたのをきっかけに目覚めました。当時は毎朝、六甲山に登つてから出社していました。ジャンルというとヒルクライム。きつい坂を登ることは、大きなハードルを超える達成感があります。シンプルに努力の結果を実感できる体験は、仕事と向き合ううえでも好影響でした。当時は営業職でしたので、『数字的な目標にコ

究極の追い込みで“ヒラメキ”と“自信”がつく。

ビジネスの世界で結果を出している人物は、なにによって自分を高め、力を得ているのか。今回は、デジタルとリアルを組み合わせ、新しい“歩き旅”を提案する旅アプリを立ち上げた米田大典さんに、モチベーションと自信をもたらしてくれるものを教えてもらった。

写真=丸益功紀 文=遠藤 匠
photo : Kouki Marueki(BOIL) text : Takumi Endo

フランスの老舗自転車ブランド〈ルック〉のハイパフォーマンスマodelを愛用。「ヒルクライムで心拍数を極限にまで上げると、思考がクリアになり、ヒラメキが生まれることもある」という



A:「背景や物語のあるモノから共感は生まれる」という考え方から、〈膝栗毛〉のアプリで貯められるポイントと交換できるアイテムもオリジナルで開発 B: サイクリングジャージやキャップは、〈ラフアサイクリング クラブ〉。このウエアを着ていれば、世界中どこに行っても同じクラブのメンバーであることがわかる



膝栗毛
米田大典さん

2005年に三菱地所に入社。東京本社でオフィスリーシングなどを経験後、関西赴任。グランフロント大阪のプロモーション・プランディングなどを手掛ける。2018年に新事業提案制度に応募。2021年11月より現職。



『Safari』×『HOUSETRAD』と 居心地のいい空間づくりを。

この記事を読んで、自宅、会社のリノベーション、戸建てに興味を持たれた方は、是非下記アドレスにご連絡ください。『Safari』が、インテリアデザイン会社「HOUSETRAD」と一緒に、あなたのライフスタイルに合った住空間をご提案させていただきます。物件探しなどもお気軽にご相談ください。

info_house@hinode.co.jp

HOUSETRAD

アメリカナイズされた
上質な住空間を提案。

“古くなつて捨てられるようなモノは、買わない、売らない、つくらない”が理念のリノベーション会社。個人宅以外にも、オフィス、店舗、オーダー家具までデザイン。専属の不動産アドバイザーもいるので物件紹介も可能。住空間のスペシャリスト。

④東京都目黒区中目黒1-9-3
ROJU NAKAMEGURO
☎03-6412-7406
<https://housetrad.com/>



HOUSE TRAD

〈ハウストラッド〉で住空間をアップデート。

絶景の眺望を生かした
ホテルライクな上質空間。

贅沢な眺望と洗練された家具、癒しのグリーンの存在が5つ星ホテルのスイートルームを思わせる川嶋邸。天井に使われたウッド、上質な絨毯が持つ本物の存在感が、白を基調にした空間に映える。時間を忘れるくらい心地よく過ごせる、癒しの住まいだ。

写真=松村隆史 文=中城邦子
photo : Takafumi Matsumura text : Kuniko Nakajo

都

会のビル群が眼下に広がる川嶋邸。これまでの住まいが手狭になったためタワマンに住み替えた。好みのリノベーションをするにあたりイメージしたのは、学生時代を過ごしたアメリカ西海岸の軽やかさ。ヨーロッパで触れた、洗練されたインテリアを自分たちらしく取り入れるスタイルだ。ソファやダイニングにモダンなイタリア家具を。そして、部屋のあちこちに置かれた大鉢のグリーン。これは、明るさと落ち着き、ナチュラルとモダ

ンを絶妙なバランスで繋いでいる。また、川嶋さんのもうひとつのこだわりが、音楽を思い切り楽しめること。天井を板張りにし、床はグレージュの絨毯敷きで、音が柔らかく広がり大音量を楽しめる作りに。リビングには〈バウワース アンド ウィルキンス〉のスピーカーを設置。ライブ会場にいるような臨場感を楽しんでいる。仕事を終えてソファでくつろぎながら音楽を聞く。そのひとときは、高層階の景観が生み出す浮遊感を、より特別なものにする。

 Gastronomic City
YOKOHAMA*



華街やクラシックホテルを擁し、食文化において成熟したイメージを持つ横浜。しかし、近年のガストロノミーの文脈の注目度としては、街としてやや後れをとっていた感もあるだろうか。ところが最近、ウルサ方の美食家たちも大絶賛し、密かに通う料理店がふたつある。

ひとつは、今年4月に横浜駅西口にオープンしたばかりの〈スモーケドア〉。この店は、日本ではまだ珍しい熾火を駆使する、薪火料理専門のレストランである。薪火は、原始的な調理法ながら、近年は食材によって微細に火入れができるから、最先端のレストラン中でそれを武器とするところも登場している。その代表が、2009年にミシュランで3つ星を獲得した、サンフランシスコの〈Saison〉だ。その店でエグゼクティブ・シェフを担当したタイラー・バージズ氏を招き、横浜で勝負を挑む。

日本の食材のパワーやボテンシャルの高さに魅了されたというタイラー氏は、「自分が培った熾火の技術を駆使し、世界のどこにもない薪火料理を作りあげたい」と意気込みも熱い。西海岸風の開放感ある店内で味わう料理の数々は、美味しいだけでなく新鮮な驚きがある。

一方、元町中華街で、ひとくわ異彩を放つ店構えと料理の内容で、食通たちを驚嘆させているのが、蕎麦懐石料理の〈横浜 晋山〉である。店主の徳武 聰氏は、蕎麦の奥深さに魅了されてこの道に入り、都内の蕎麦懐石の名店で修業後、2016年12月にこの店を開店。料理は、派手な演出はないものの、磨き上げた技術と確かな仕事がなされ、創意も加わり、ひと味もふた味も違う奥深い日本料理を作り上げている。

白眉は看板の蕎麦である。注文が入ってから打ちはじめる更科蕎麦は、切れ味も抜群。特に、かわり蕎麦の雲丹蕎麦は、蕎麦粉に新鮮な雲丹を仕込んで打ち上げ、つゆにも雲丹を溶け込ませる手間と贅の凝りよう。これには通すら卒倒するはずである。

いずれ劣らぬ、美食の未体験ゾーンを、是非横浜で実際に体験してほしい。



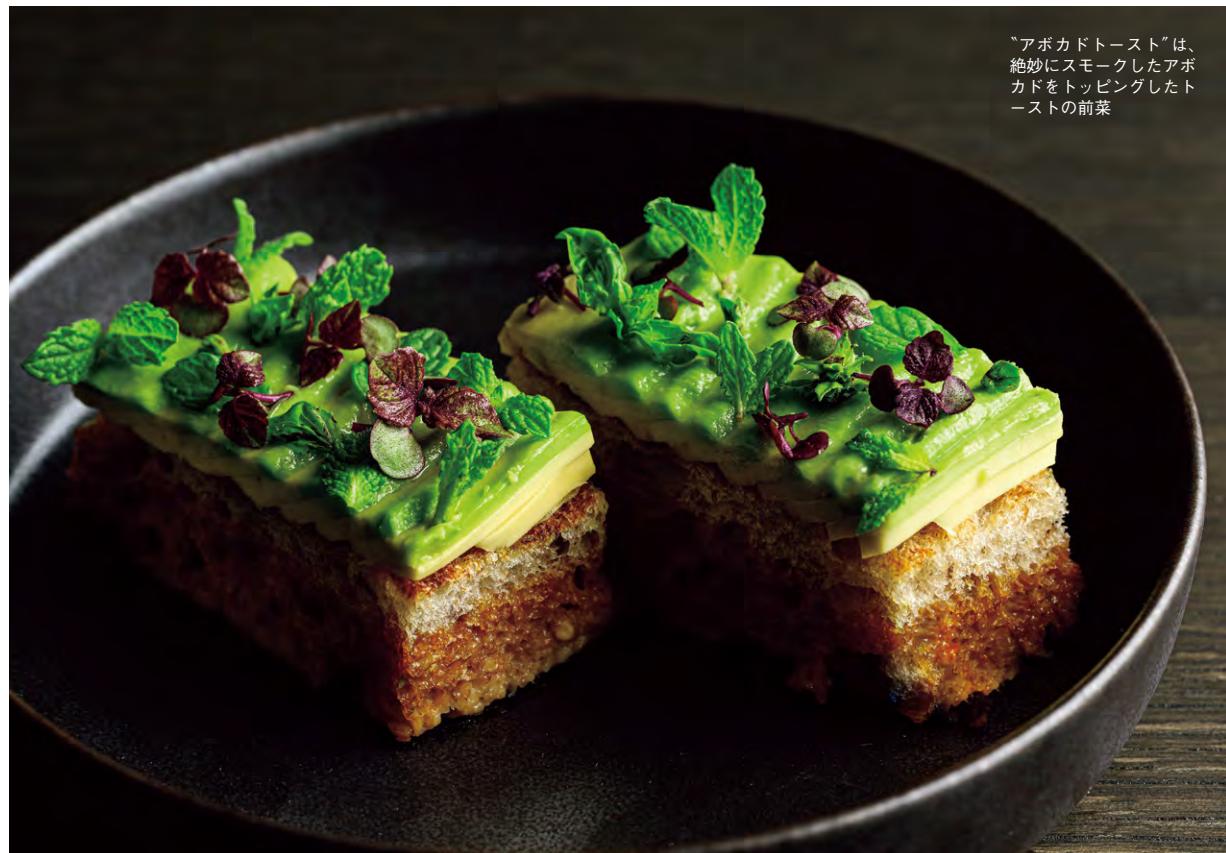
取材・文 中村孝則 美食評論家

1964年神奈川県葉山生まれ。ファッショニカルチャーフィールドで活動中。主な著書に『名店レシピの巡礼修業』(世界文化社)がある。2013年より『世界ベストレストラン50』の日本評議委員長も務める。'22年春より、JR九州が運行する「ななつ星in九州」の車内誌の編集長に就任。

今絶対に行くべき、横浜で注目の美食系レストラン。

サンフランシスコの3つ星店からシェフを招聘して、今年開店したばかりのモダンな熾火料理店。革新的な手打ち蕎麦を武器に、研ぎ澄まされた技術で挑む懐石料理店。今横浜で極めて異彩を放つふたつのレストランを紹介する。

取材・文=中村孝則 text : Takanori Nakamura



“アボカドトースト”は、絶妙にスマーカーしたアボカドをトッピングしたトーストの前菜



SMOKE DOOR

[スモーケドア]

3つ星の熾火料理が横浜で味わえる。

サンフランシスコの〈Saison〉は、人類最古の調理法といわれる熾火料理で、2009年にミシュランの3つ星を獲得した伝説の名店。そこでエグゼクティブ・シェフに従事したタイラー・バージズ氏が、日本の食材を使い、より進化させた熾火料理で挑むレストラン。

DATA

④神奈川県横浜市西区南幸2-16-28
HOTEL THE KNOT YOKOHAMA 1F
⑤レストラン 7:00~23:00、
モーニング 7:00~11:00(10:30最終入店)、
ランチ 11:30~14:00LO、カフェ 14:00~17:00、
ディナー 17:30~23:00(フード22:00・ドリンク22:30LO)、
カフェ・バー 7:00~23:00
⑥ホテル休館日に準ずる ☎050-3174-8172
<https://hotel-the-knot.jp/yokohama/smoke-door/>



YOKOHAMA SHINZAN

[横浜 晋山]

美食家がこっそり通う 横浜中華街の蕎麦の名店。

蕎麦をメインにした懐石料理店である。中華街にひっそり佇む、こぢんまりした店内ながら、マダムのきめ細かなもてなしもあり居心地がいい。料理は、看板に偽りのない切れ味も抜群の手打ちの更科蕎麦を中心に、季節の料理の数々が味わえる。酒も充実している。

DATA

④神奈川県横浜市中区山下町106-16
周ビル1F
⑤完全予約制。17:30~22:00LO
不定休
☎045-228-9479

更科蕎麦に雲丹を練り込むという大胆かつ唯一無二の料理、“雲丹蕎麦”



A:注文が入ってから打つ雲丹蕎麦。茹でる前の蕎麦からも雲丹の豊かな芳香が漂う B:季節に呼応して創意工夫の料理が供される“前菜5品” C:横浜中華街にあって異彩を放つ店構え D:店主の徳武 聰氏は、大学卒業後に蕎麦に目覚めこの道に。都内のミシュランの蕎麦屋で修業後、2016年にこの店を立ち上げ、いまや知る人ぞ知る名店に

IWC PILOT. ENGINEERED FOR ORIGINALS.



ビッグ・パイロット・ウォッチ 43

Ref. 3293: 機能的なデザイン、視認性に優れた文字盤、人目を引く円錐型のリューズといった特徴で「ビッグ・パイロット・ウォッチ」はアイコン的存在となりました。このたび、直径43mmのモデルが初めて登場し、手首で際立つ存在感はそのままに、かつてなかった快適さを

実現します。IWC自社製キャリバー82100とサファイアガラスの裏蓋を備える「ビッグ・パイロット・ウォッチ 43」は、ストラップ／ブレスレットを素早く交換できるEasX-CHANGE®システムの採用により、汎用性の高いスポーツウォッチとして様々なシーンで活躍します。
IWC. ENGINEERING DREAMS. SINCE 1868.

**DOWNLOAD THE NEW IWC APP
FOR VIRTUAL TRY-ON**

IWC自社製キャリバー82100・ペラトン自動巻き機構・
60時間パワーリザーブ・秒針停止機能付きセンターセコンド・
サファイアガラスのシースルーリング・防水性10気圧・
直径43mm・ステンレススチール

IWC Schaffhausen, Switzerland · www.iwc.com/ja · Contact info 0120-05-1868

IWC
SCHAFFHAUSEN